2022年 12月期
決算補足説明資料

・2022年12月期決算概要
・中期経営計画2022-2024進捗

2023年2月13日

三菱鉛筆株式会社

2022年12月期決算概要

2022年12月期 連結決算 概略

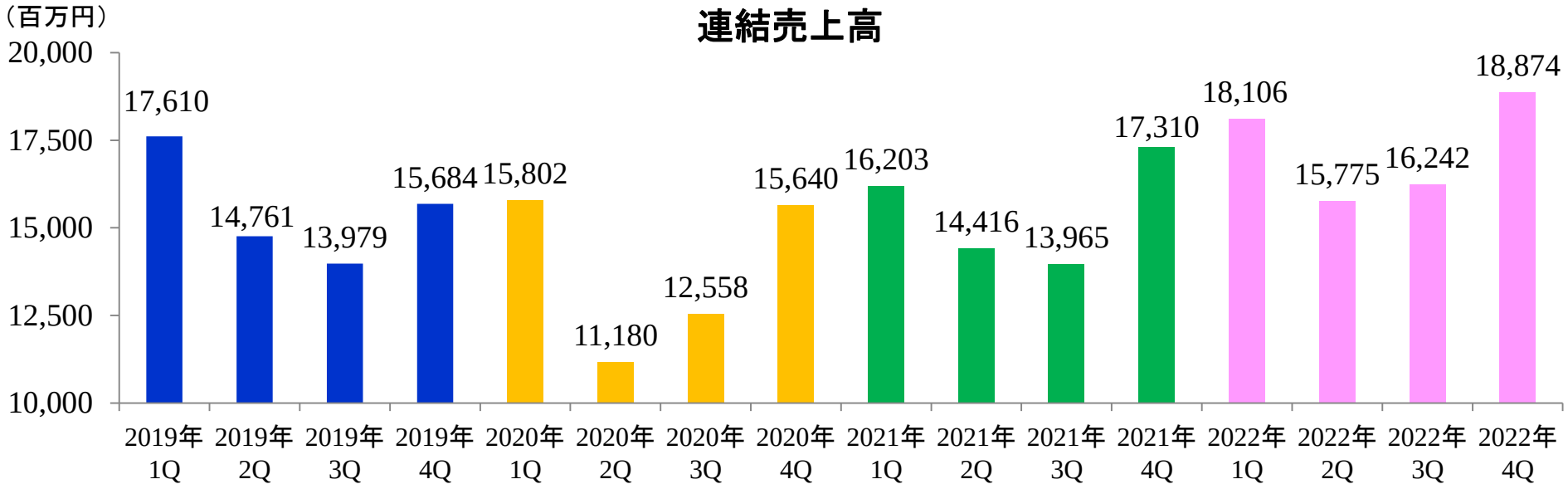
uni MITSUBISHI PENCIL

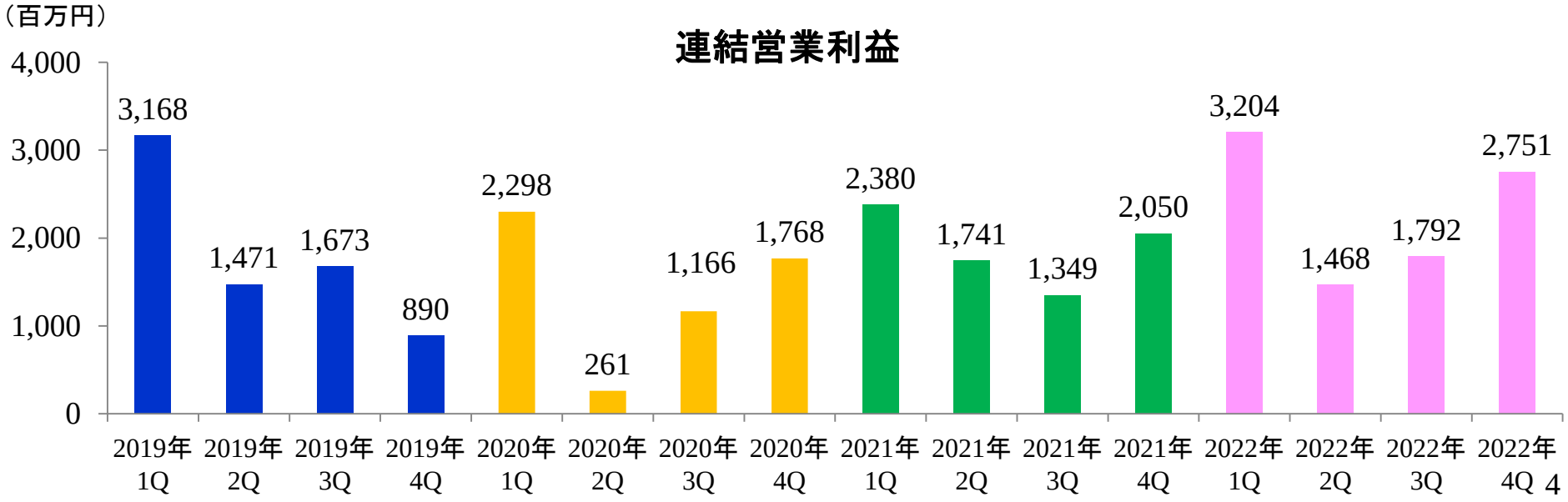
【連結】 単位：百万円	2022年 1-12月	2021年 1-12月	対2021年 増減額	対2021年 増減率（%）	2020年 1-12月	2019年 1-12月	2018年 1-12月
売上高	68,997	61,894	7,103	(11.5%)	55,180	62,034	62,498
売上総利益	33,953	30,667	3,286	(10.7%)	27,310	31,289	32,006
（売上総利益率）	49.2%	49.5%	-	-	49.5%	50.4%	51.2%
販管費	24,709	23,146	1,563	(6.8%)	21,817	24,086	23,081
営業利益	9,243	7,520	1,722	(22.9%)	5,493	7,202	8,925
経常利益	10,128	8,309	1,819	(21.9%)	5,988	7,580	9,283
当期純利益※	6,951	5,658	1,292	(22.8%)	3,794	4,436	5,778

※親会社株主に帰属する当期純利益

【売上高が過去最高値を更新】
・海外市場ではサインペンをはじめ、販売が好調、加えて為替影響により伸長
・国内市場ではジェットストリームを中心に販売が底堅く、化粧品も好調に推移
【営業利益は対前年22.9%増】
・資源価格、原材料価格、物流費の高騰などの利益押し下げ影響のなか、売上高伸長により営業利益が増加

連結業績 四半期推移（売上高／営業利益）



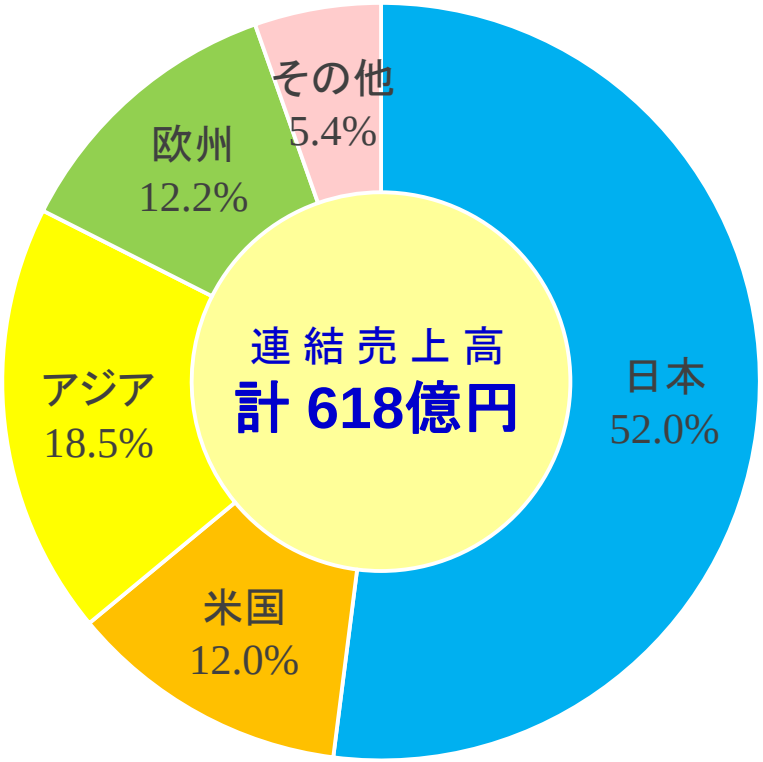


連結売上高　地域別構成比

MITSUBISHI PENCIL

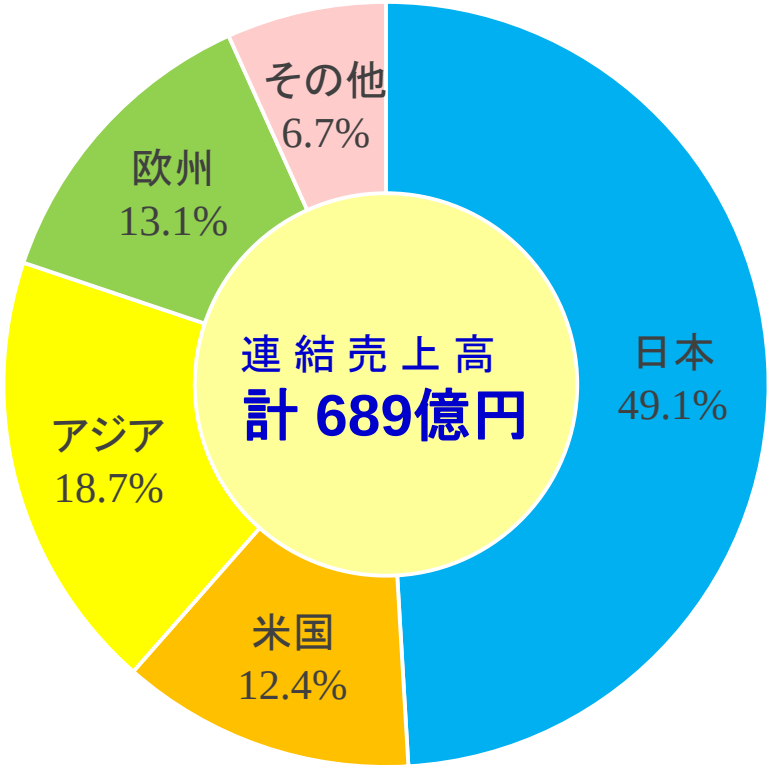
米国や欧州を中心に海外での売上高が伸長
海外市場での売上構成比が50%を超える

2021年 1-12月



国内:海外
52.0:48.0

2022年 1-12月



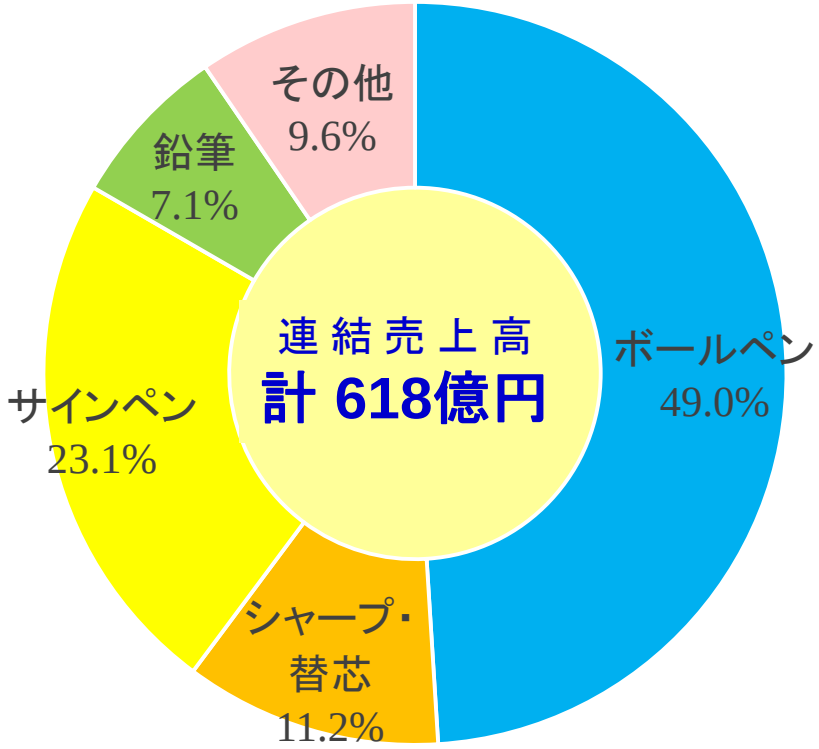
国内:海外
49.1:50.9

連結売上高　製品別構成比

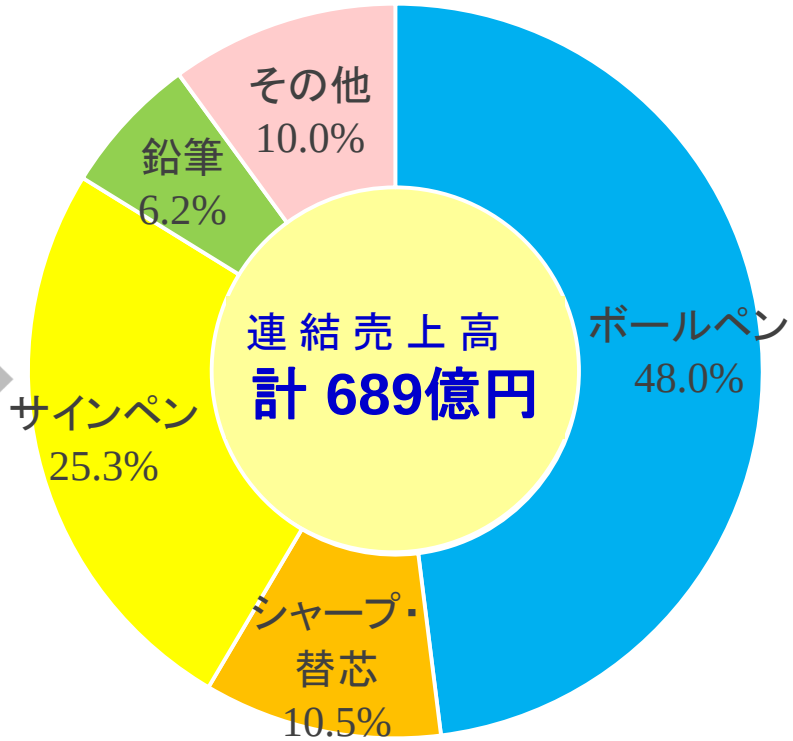
MITSUBISHI PENCIL

サインペンの構成比が大きく伸びる

2021年 1-12月



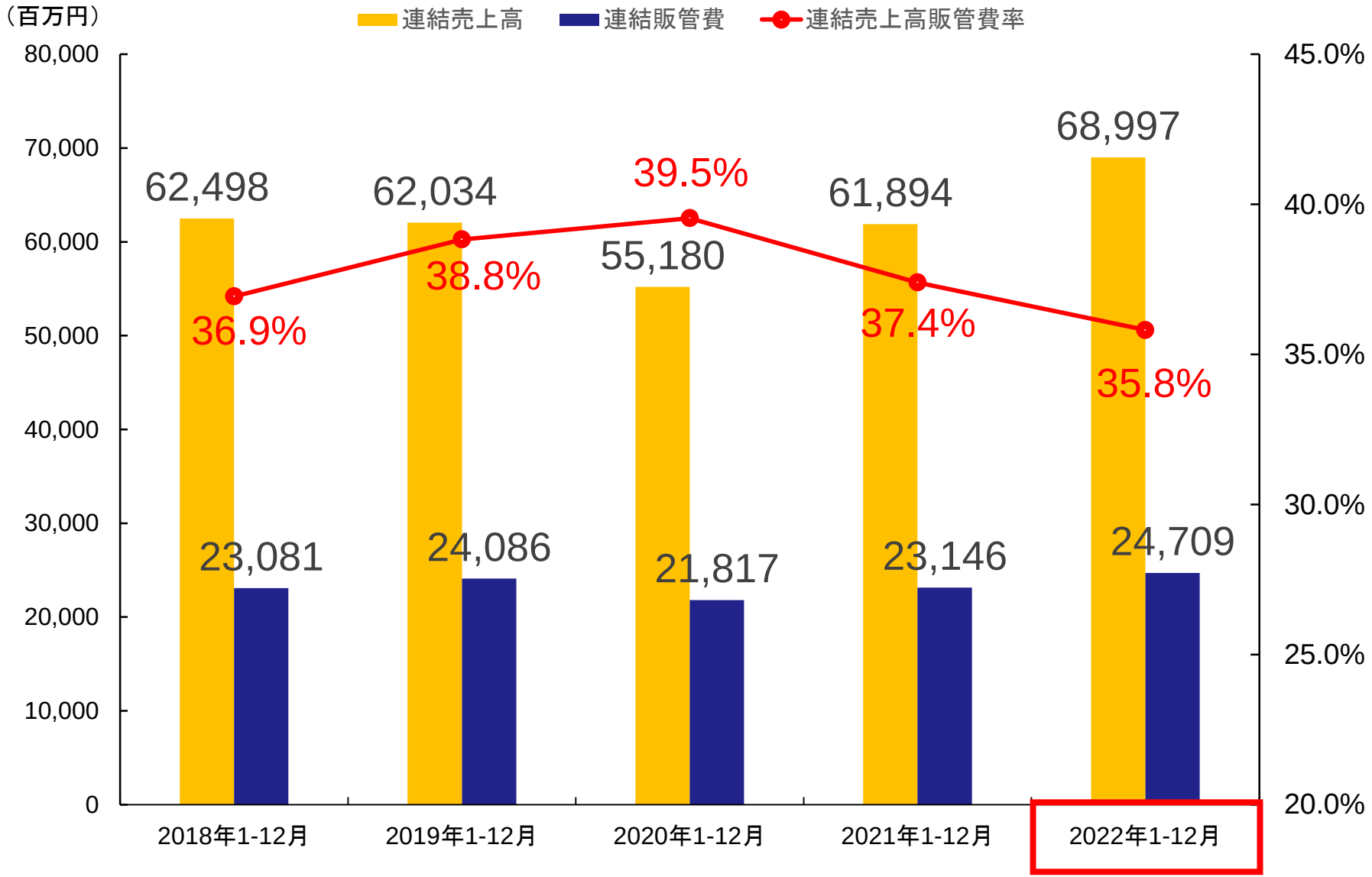
2022年 1-12月



連結売上高販管費比率

MITSUBISHI PENCIL

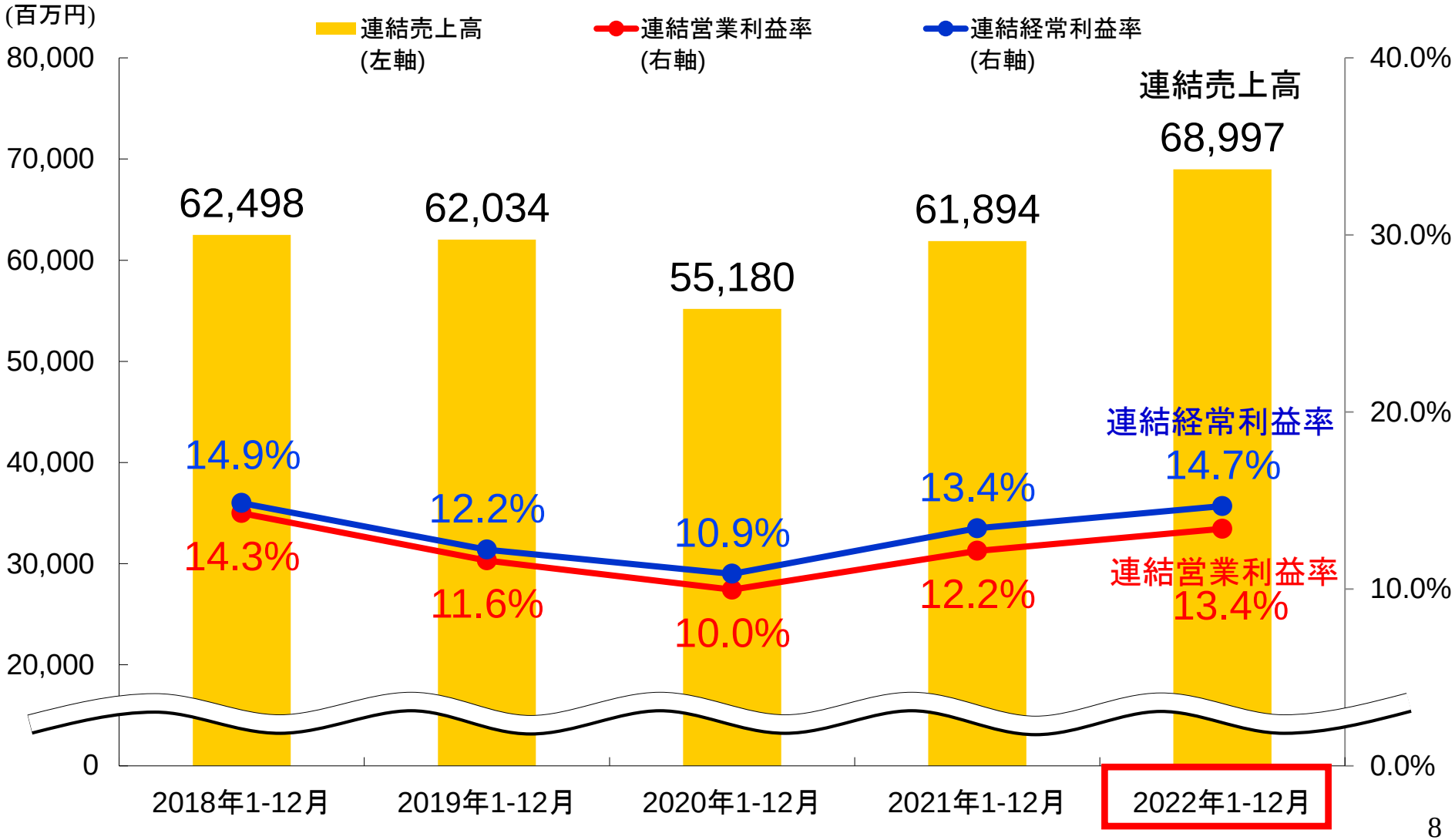
売上高の増加に伴い、販管費比率は低下



連結売上高 営業利益率・経常利益率

MITSUBISHI PENCIL

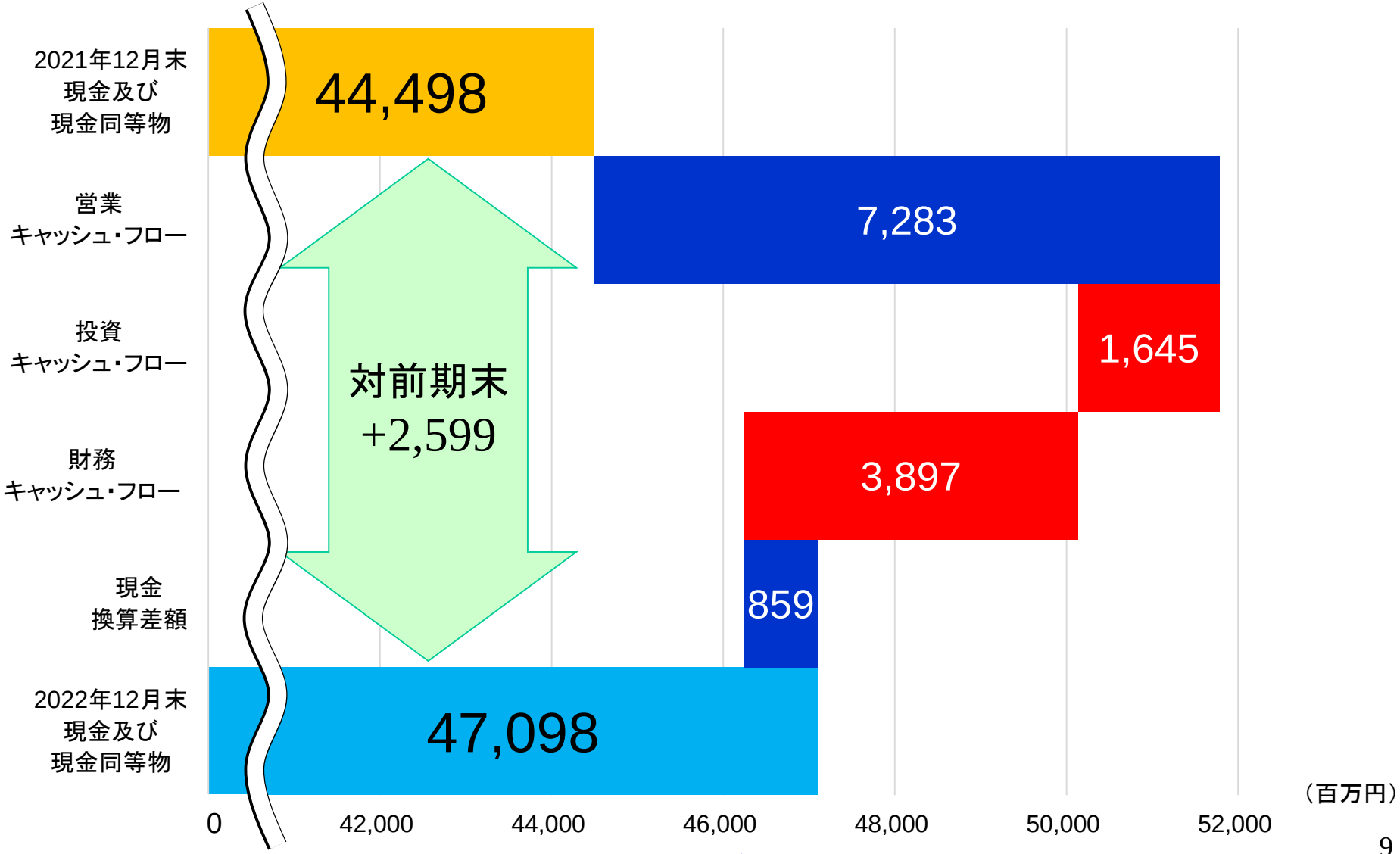
営業利益率・経常利益率がともに上昇



連結キャッシュ・フロー

MITSUBISHI PENCIL

自己株式取得により財務キャッシュ・フローによる支出が増加

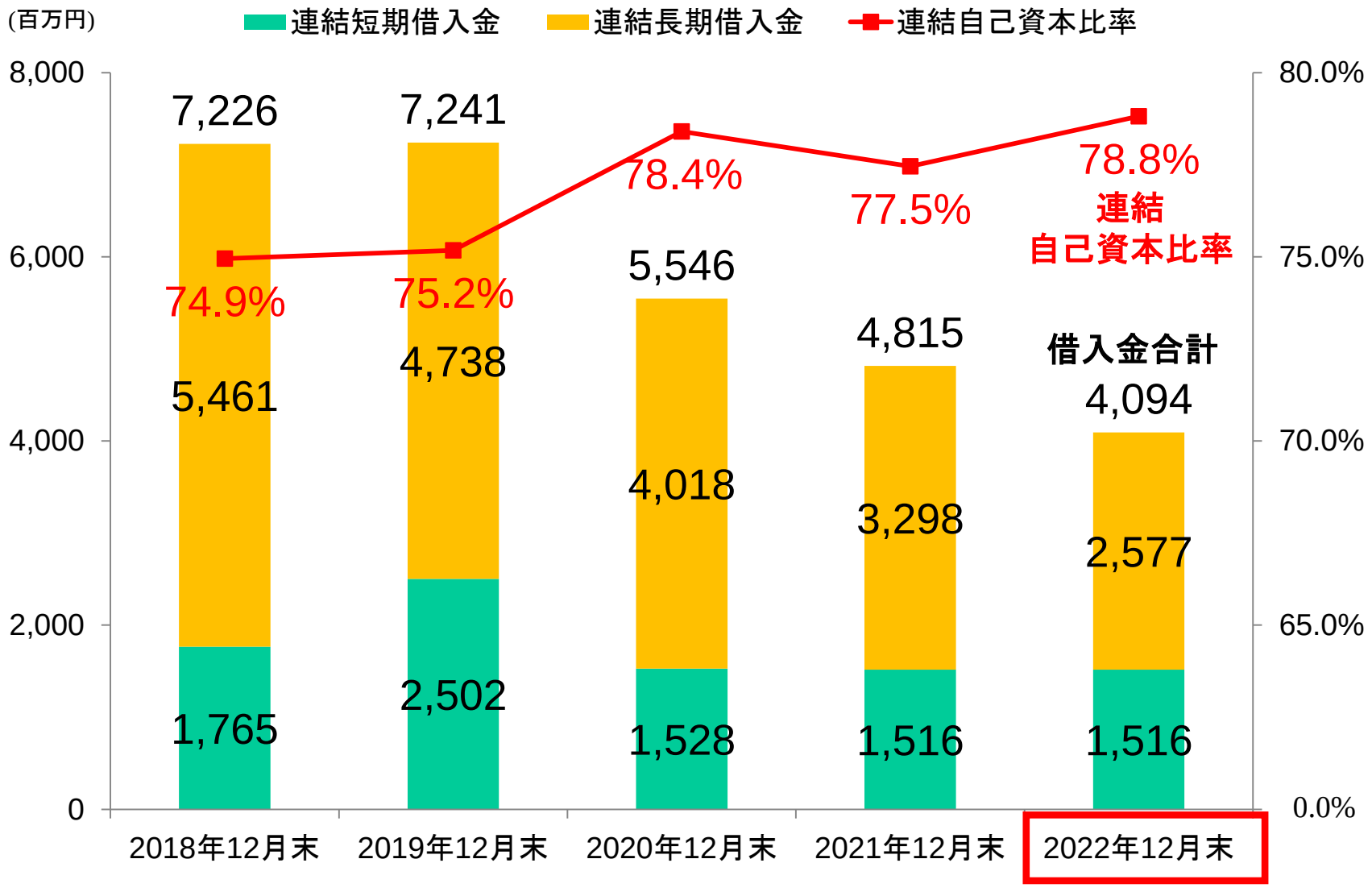


（※）キャッシュ・フロー計算書では定期預金残高は表現されませんので、BS「現金及び預金」とは一致しません。

有利子負債 / 自己資本比率

MITSUBISHI PENCIL

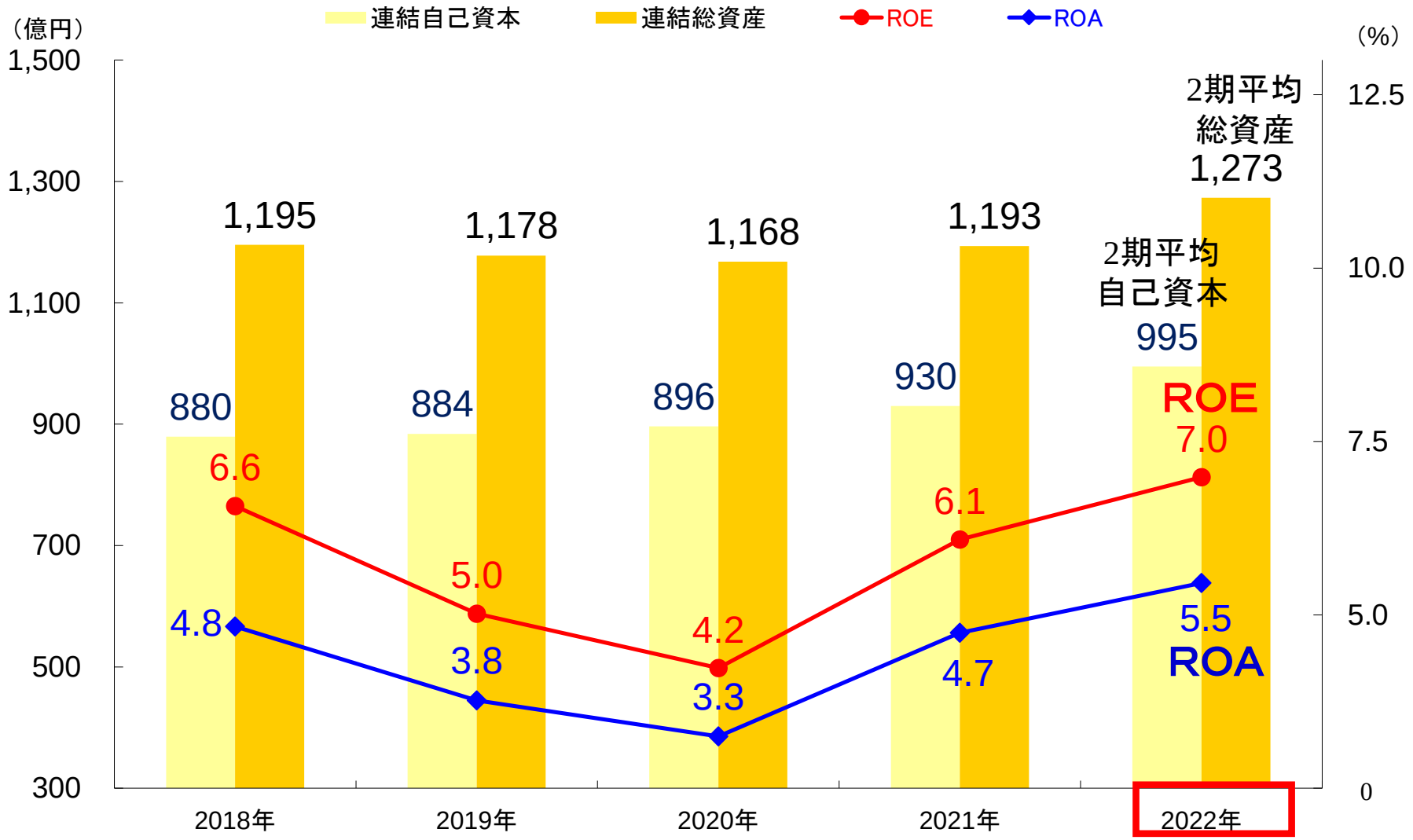
自己資本比率は高い水準を維持



自己資本純利益率（ROE）・総資産純利益率（ROA）

uni MITSUBISHI PENCIL

ROE・ROAは上昇基調

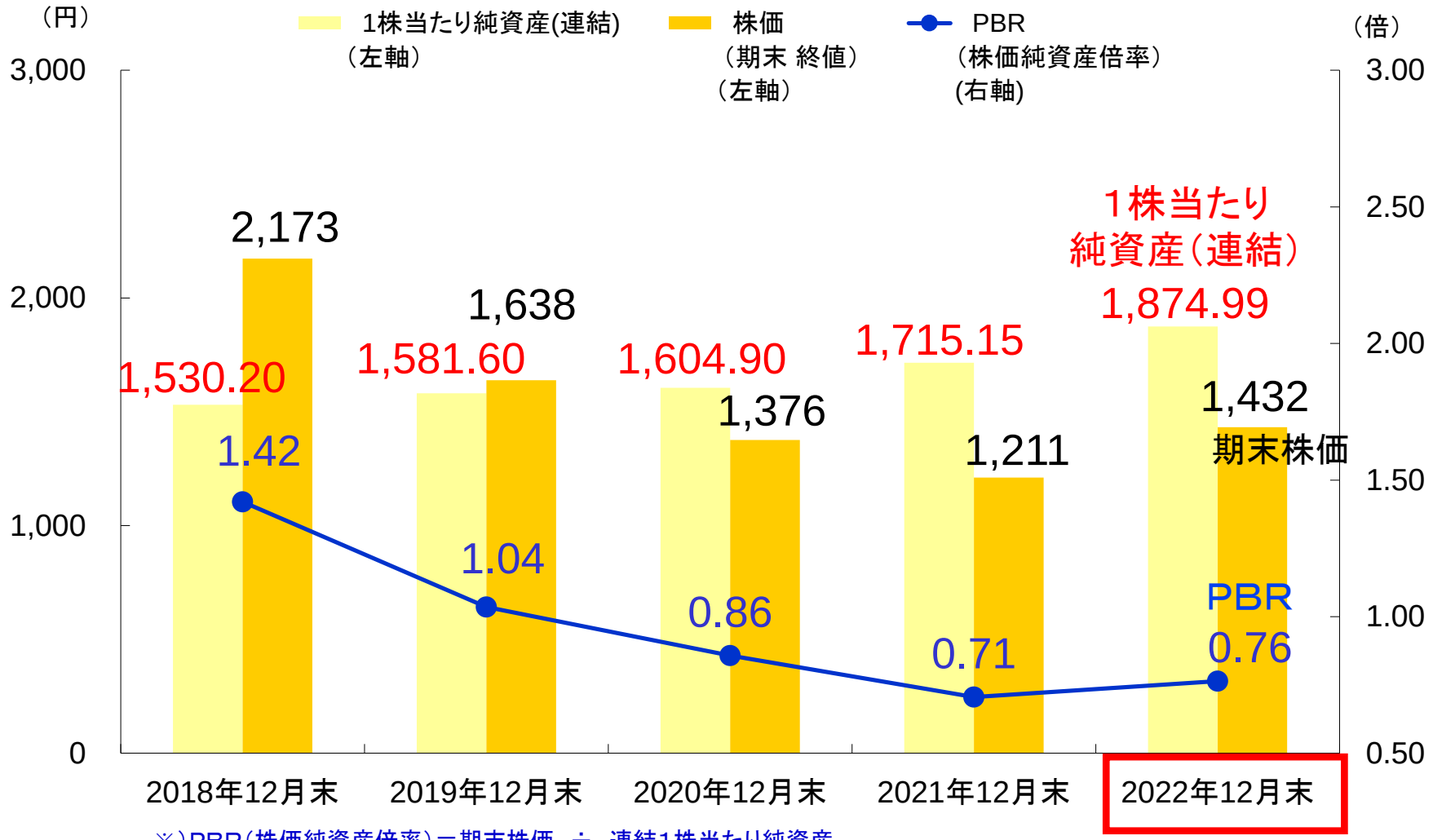


（※）ROE = 連結純利益 ÷ 2期平均自己資本
（※）ROA = 連結純利益 ÷ 2期平均総資産

1株当たり純資産 / 株価純資産倍率

MITSUBISHI PENCIL

1株当たり純資産は上昇基調
PBRも上昇に転じたが、更なる改善を目指す



※）PBR（株価純資産倍率）＝期末株価 ÷ 連結1株当たり純資産

2023年連結業績予想及び配当予想

uni MITSUBISHI PENCIL

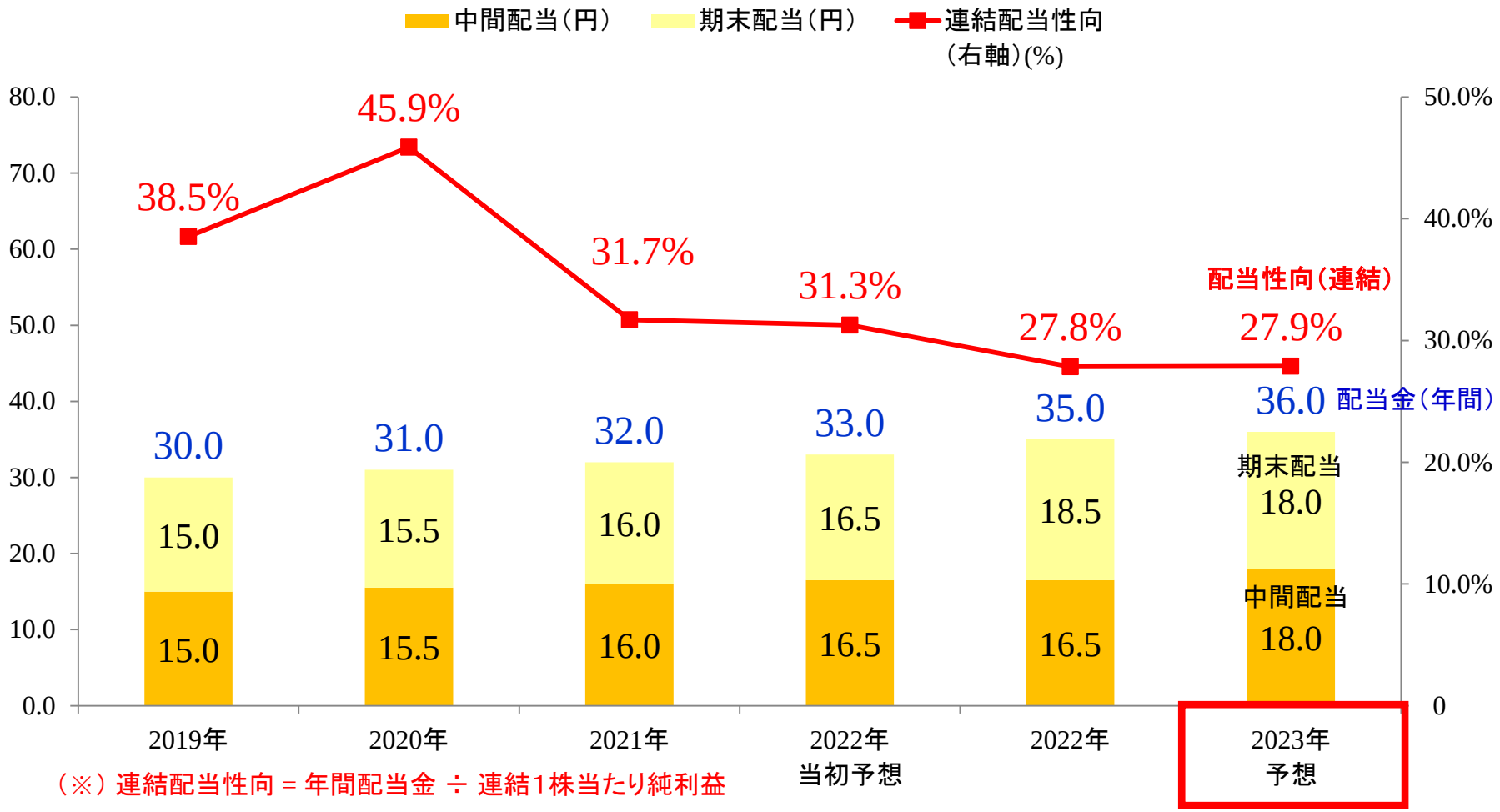
【売　上　高】海外市場を中心にさらなる販売拡大を図る
【営業利益】筆記具事業のグローバル化に向けた戦略投資や、例年以上の賃上げを実施しつつ、営業利益は確保

単位：百万円

【連結】	2022年実績	2023年業績予想	業績予想 対前期増減率（%）
売上高	68,997	70,500	2.2
営業利益	9,243	9,500	2.8
経常利益	10,128	10,400	2.7
親会社株主に帰属する当期純利益	6,951	7,100	2.1
配当（年間）	35.00	36.00	
配当（中間）	16.50	18.00	
配当（期末）	18.50	18.00	

☑想定為替レート：1USD=132円

配当金・連結1株当たり純利益・配当性向



（※）連結配当性向 = 年間配当金 ÷ 連結1株当たり純利益

年間配当金（円）

30.0	31.0	32.0	33.0	35.0	36.0

連結1株当たり当期純利益（円）

77.84	67.57	100.96	105.54	125.73	129.14

中期経営計画2022-2024進捗

中期経営計画2022-2024

MITSUBISHI PENCIL

再掲載

＜創業150年＞
世界一の表現革新カンパニー

コーポレートブランドコンセプト
違いが、美しい。

2021年
売上高 618億円
営業利益 75億円
営業利益率 12.2%

売上高内訳
・海外筆記具事業 292億円
・国内筆記具事業 272億円
・新規事業等 54億円

中期経営計画
2022-2024

2024年
売上高 710億円
営業利益 116億円
営業利益率 16.4%

売上高内訳
・海外筆記具事業 340億円
・国内筆記具事業 300億円
・新規事業等 70億円

2027年 2030年 2033年

2036年
売上高 1,500億円
営業利益 225億円
営業利益率 15.0%

売上高内訳
・海外筆記具事業 700億円
・国内筆記具事業 300億円
・新規事業等 300～500億円

コア事業である筆記具事業はグローバルシェアでトップグループを目指します

加えて、成熟市場である筆記具市場の縮小も想定し、これまで以上に新規事業に取り組みます

※「売上高内訳」に表示しているセグメントは決算等で発表しているものと異なります

当社は策定した『長期ビジョン「ありたい姿2036」、中期経営計画2022-2024』を2022年2月に公表させていただきました。

財務目標の進捗

連結 財務指標		2021年	2022年	2024年
		実績	実績	目標
売上高	億円	**618**	**689**	**740**
筆記具事業売上高	億円	**564**	**620**	**670**
海外筆記具事業	億円	292	346	370
国内筆記具事業	億円	272	274	300
新規事業等売上高	億円	**54**	**69**	**70**
営業利益	億円	**75**	**92**	**116**
営業利益率	%	**12.1**	**13.4**	**15.7**

※「売上高内訳」に表示しているセグメントは決算等で発表しているものと異なります

※2024年の数値目標については2022年2月17日公表の『「ありたい姿2036（長期ビジョン）」「中期経営計画2022-2024」の策定に関するお知らせ』とは異なります。
詳細につきましては2023年2月13日公表の『「中期経営計画2022-2024」の数値目標修正に関するお知らせ』をご参照ください。

重点方針に対する進捗について

uni MITSUBISHI PENCIL

基本方針　uni re-design

大きな目標「ありたい姿」の実現のために、視点や考え方を変えて、業務のやり方を再構築してのぞみます

重点方針	2022年の進捗
筆記具事業のグローバル化 当社の主力事業である筆記具事業においては、販売・供給・マーケティング機能を再構築し、よりグローバルな体制へと進化させ、海外市場を中心に事業拡大を目指します	・海外筆記具事業においては、注力市場である米欧中を中心に現地の販売・供給・マーケティング機能の再構築が進み、目標を達成いたしました ・国内筆記具事業においては、市場環境がより一層厳しくなっている中、JETSTREAM等の重要ブランドに注力し、市場シェアを拡大することができたと考えております。
新規事業をグロースステージへ これまで進めてきた技術を横展開しての新規事業創出に加え、書く・描くにとどまらない筆記前後の「思考」「発信」などの″表現体験そのもの″を事業領域として再定義し、新技術獲得を積極的に進めながら新規事業を創出・育成してまいります	・新規事業については、コア技術を横展開している化粧品事業において、主力のアイメイク製品を中心に大口顧客の獲得が進み、売上を大きく伸ばしました ・「表現ドメイン」での事業創出については、2021年よりサービスを開始したLakit事業の育成に注力しつつ、次期テーマの創出活動を進めております
サステナブルな体制構築 企業の成長のみならず、自然環境・社会との共生を図り、持続的な成長を目指します これからも、表現を楽しみ続けられる自由でボーダーレスな社会の実現に貢献します	・サステナビリティ推進委員会を発足し「違いが、美しい」世界をずっと。の基本方針のもと、活動への取り組みをより積極的に進めております ・商品においては、商品自体の長寿命化やプラスチック使用量の削減など、様々なアプローチで環境負荷の低減に取り組んでおります

資本政策について

キャッシュフローの配分について（中期経営計画2022-2024）

営業CF
2022-2024累計
280億円以上

設備投資
75億円以上

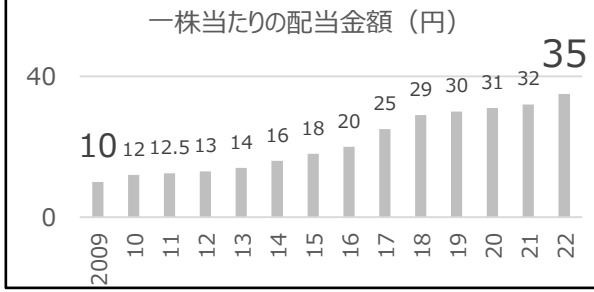
戦略投資
35億円以上

株主還元
75億円以上

2022年の主な活動

・新製品用の設備・金型
・最適生産体制の構築（増産用設備、自動化など）
・基幹系システム整備（カスタマイズ、機能整備など）

・海外での成長投資（ブランディング活動および拠点整備）
・新規分野、新技術への開発投資（デジタル技術、新素材、環境対応など）
・新規事業創出のための探索活動、他社との協業



＜安定した株主還元＞
・13年連続増配
・自己株取得及び消却

違いが、美しい。

uni

MITSUBISHI PENCIL

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想となります。
従って、潜在的なリスクや不確実性が含まれており、実際の業績はさまざまな要因により、これらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。